

文化情報学部 福田 智子ゼミ

真正面からデータと向き合い、 実証的に文学を研究する

夢告館101教室。京田辺オープンキャンパスに訪れた高校生を前に、福田ゼミの学生たちが自身の研究内容を説明していた。『古今和歌集』『新古今和歌集』を比較し、季節を表す語の時代変化を調べる研究について、パワーポイントを使って解説したのは長尾聡美さん。

『古今和歌集』と『新古今和歌集』に使われている季節の単語に着目し、同じ単語でも歌集が編纂された時代によって詠まれ方や傾向が変わってくるのではと考え、特定の語を文字列検索の数字から拾い上げてどのような変化が見られるのか調べる研究です。文字列解析のソフトを使い、最初は単純に使われる頻度を見て、歌集ごとの歌の数を考慮しつつ分析していきます。

福田智子准教授の専門は、源氏物語を含む平安時代の和歌を中心とした日本古典文学。それだけに長尾さんをはじめ、『今昔物語集』と他説話に出現する「鬼」とを比較する中川郁雄さん、「伝藤原公任筆『古今和歌集』の本文を元永本や伊達本と比較し、語彙の違いについて考察」している坂上瑞穂さん、「延慶本『平家物語』の登

場人物の造型や場面設定について、志と語を通して考察します」と言う上坂尚子さん、そして、『源氏物語』玉鬘巻諸本における表記のゆれについて考察する山崎美佳さんと、ゼミ生の卒業論文のテーマには古典の研究が並ぶ。

唯一、「安部公房の作品における単語と文体の関係を、アナログレテジタル転換操作という観点から考察します」と言う青

木省二さんだけが、近代文学を題材に選んだ。だが福田先生によると、文化情報学部の文学研究として見た場合、それは決して特別なことではないという。

「文化情報学部の学生の多くは、プログラミングの技術を習得する授業を受けています。様々な統計や文字列解析の手法など、専門的な情報科学の技術を身につけていますから、このゼミではそういったデー

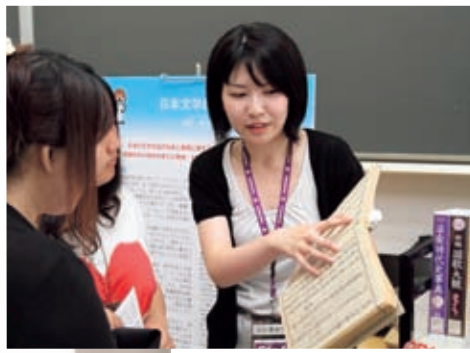


福田 智子【文化情報学部准教授】

タ分析の技術を援用して、文学作品の本質を明らかにしていきます。したがって、作品をデータとして捉える実証的な文学研究の手法としては、対象が古典文学であっても、近現代文学であっても基本的には変わりません」

文学研究という言葉からは、まず最初に文学部の存在が頭に浮かぶ。だが、同じ文学研究をテーマにしながらも、文学部と文化情報学部の学びは大きく違う。

「文学部ではなく文化情報学部で行う文学研究の最大のポイントは、情報科学の手法を取り入れるということですよ」と、福田先生は説明する。「文化情報学部で日本文学を研究していくに当たっては、もちろん文学作品に対する



理解は不可欠です。しかし、文学作品に関する講義の数や、作品に接する機会は、文学部と比較するとどうしても少なくなり、知識の量や深さもそれに比例してしまいます。そこでどのように文学研究を進めるのかというところで、『情報科学』の手法を取り入れていくのです。文学作品の中には、必ずキーワードというものが出てきます。

もちろん、気づきやすいものもあれば、発見が難しいものもあります。通常はそのキーワードを読むことによって発見するのですが、私たちは作品を電子テキストという形にし、それをコンピュータで文字列解析することで、キーワードを発見しやすいように加工するのです。コンピュータが挙げてきた候補

の中から、作品の本質を射たキーワードを発見していく。コンピュータを使うことで、人間の語感では見つけにくい事象を発見できます。作品を読むとはまったく別の角度から作品を分析するため、なぜ見落としていたのか意外に思うようなことを発見できるケースも少なくありません。学生には、それを見逃さずことなく、しっかりと論理展開をしていくことを求めています」



文化情報学部では人間のすべての営みや人間そのものを「文化」と捉え、科学的手法でデータ化し分析する。学生は3年次までにコンピュータを使った解析の手法身に付け、4年次のゼミから個別のテーマに沿って研究を進めていく。

文理融合の学部という位置づけから、とりわけ日本文学を専門とする福田ゼミでは、文系のコンテンツと理系の高度な科学

技術が等距離で交差する。事実、学生に聞いてみると、「最初の志望は文学部でしたが、勉強の対象を文学だけに絞ることに迷いもありました。プログラミングなど、文系の内容にとどまらず幅広く学べることに魅力でした」と言う坂上さんのように、文系の学びに飽き足らず理系の要素を求めて入学した人と、「もともと理系だったので、本が好きなことと、文化事象に興味があったので」と語る中川さんのような理系からの転向組が、同じゼミで学んでいることになる。

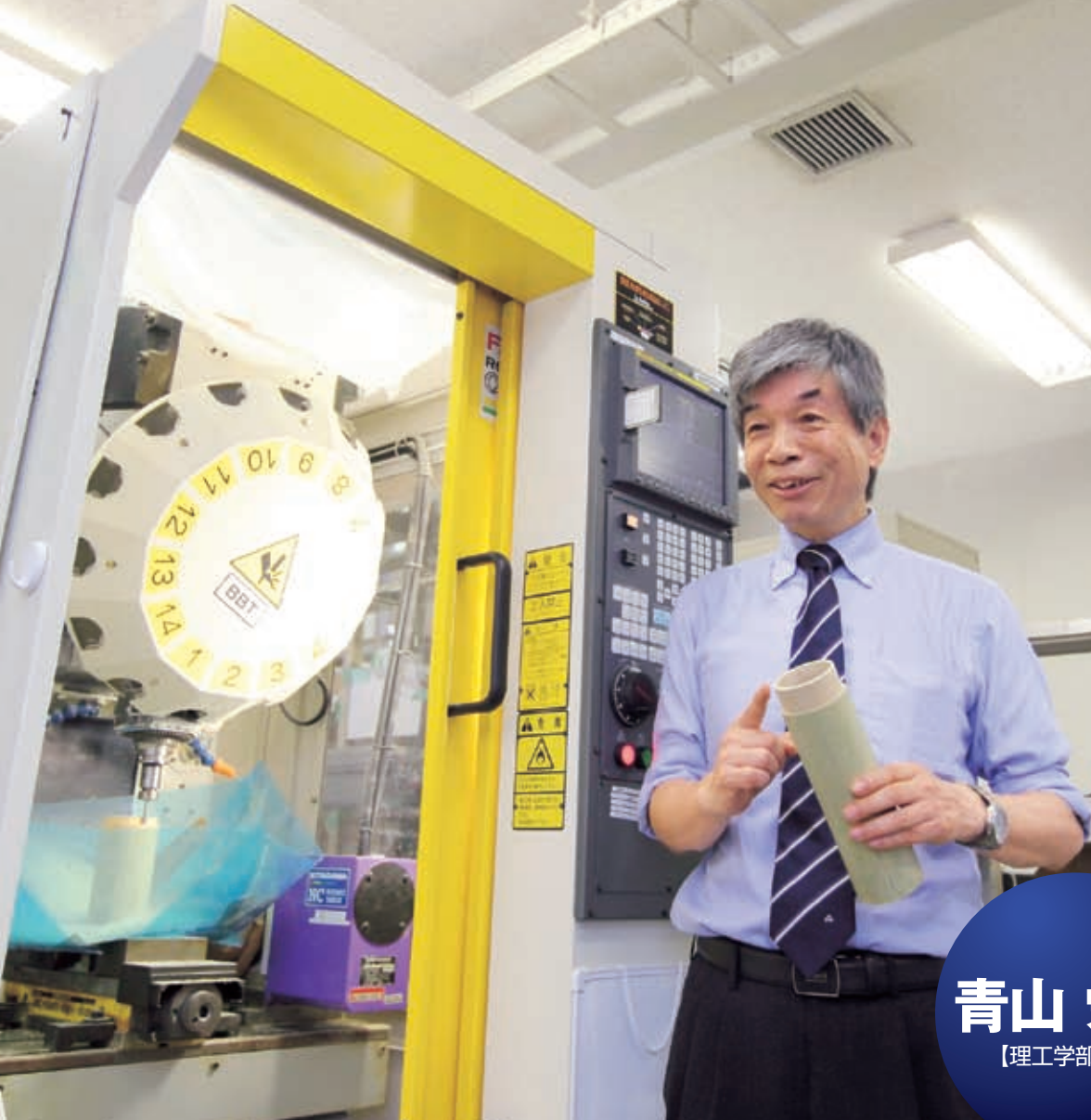
卒業後の進路も、文理が入り交じる。博物館学芸員を志しつつ、京都の地方銀行へ進む山崎さんがいる一方、長尾さんはIT企業へ就職を決めた。S.E(システムエンジニア)になる上坂さんは「理系学部ではないからと、当初S.Eはあきらめていたのですが、文化情報学部でパソコンやプログラミングの勉強をしたことで選択肢が増えました」と話す。

そんな学生たちに対して、福田先生は期待を込めて語った。

「研究テーマを論理的に分析して、自分への答えを出してほしい。それが結果として間違いであったとしても、真正面からデータと向き合い分析する力は、その後の人生で必ず役に立ちます。そのための訓練をするのが文化情報学部であり、私のゼミに所属しているから研究対象が文学作品であるという、ただそれだけのことなのです」

先端的な複合材料研究を有機的に 結びつける総合拠点

元となる母材とその強化材からなり、あらゆる分野で応用されている複合材料。文部科学省のハイテク・リサーチ・センター整備事業の選定拠点として、2007年4月、同志社大学に開設された「複合材料研究センター」は、新たな先進複合材料とそれを成形する技術の開発と評価を行い、成果を産業界に展開することを目的としている。センターとして現在進めている研究の状況について、理工学部教授、青山栄一センター長に伺った。



青山 栄一

【理工学部教授】

世の中には様々な材料が存在しますが、強度、硬度、柔軟性、耐熱性、耐摩耗性など、単体で材料に求められるすべての要素を満足させるものはほとんどありません。例えばセラミックスは、単体では非常に固く耐熱性にも優れているものの、脆いために安全性の点で問題があります。そこで、硬い材料と柔軟性のある丈夫な材料を組み合わせることによって、それぞれの利点を併せ持った新しい材料を開発しようというのが、複合材料の考え方です。

複合材料の領域は、大きく樹脂系、セラミックス系、金属系に分かれ、それぞれに異なる目的を持っています。複合材料研究センターを開設したのも、もともと大学内に複合材料の研究に携わる教員が多かったことが土台にあります。個々の研究だと、それぞれの領域における知識が共有化されず、ある分野では未知のものが別の分野では常識になっているといったようなケースがあり得ますが、分野を超えて幅広く情報交換ができれば、そういった弊害は解消することができます。そのために領域を横断する形で、それぞれの教員の研究を融合し、研究そのものを複合的に進めていくために設置したのが、この研究センターなのです。センター長の私のほか、学内メンバーには副センター長の田中達也教授はじめ理工学部の教員や、生命医科学部の先生方。学外メンバーには滋賀県立大学、京都工芸繊維大学、龍谷大学、広島大学といった他大学の先生や兵庫県立工業技術



センターの研究員、工業高等専門学校先生にも加わっていただいています。メンバーの陣容を含めて、これまで幅広く展開している研究センターは他にはあまりないのではないのでしょうか。

分野が幅広いため、実際の研究活動は大きく3つのグループに分かれています。第1グループ(二次構造材グループ)は、主に自動車の一次構造材としての用途に適した高性能の繊維強化複合材料の開発を行っています。この3年間に行ってきた研究は、先進複合材料の基礎科学(強度、耐熱性、耐食性、成形性などの機能発現メカニズムと複合効果)の解明や、天然繊維を強化材とする環境適合型複合材料の自動車用途を目指した応用開発などです。第2グループ(エンジン関連部材グループ)は、自動車用高性能金属基複合材料の開発を行うことを研究目標に、粉末冶金法による超微細粉末を活用した高強度金属基複合材

料の開発、強ひずみ加工法を活用した母材粉末と強化材粉末の超微細複合技術の開発などに取り組んできました。

そして、第3グループ(内装材グループ)が私の所属するグループで、自動車の内装材としての用途に適した高性能な繊維強化複合材料の開発およびその生産システムに関する研究を行っています。内容は、自動車の内装材に適した最先端の環境適合型複合材料の設計と生産に関する研究や、最新CNC(Computerized Numerically Controlled=コンピュータ数値制御)工作機械とCAM(Computer Aided Manufacturing=コンピュータ支援製造)システムによるデジタル技術を活用し、天然系素材から工業的用途に実用化できる高品質な材料の抽出方法の検討、さらには生産財消費財の双方で最適化を図り、地球に優しい環境適合型3R(Recycle、Reuse、Reduce)生産システムの構築です。

中でも私が現在取り組んでいるのは、マシニングセンタとエンドミル工具を使って機械的手法で抽出した竹繊維を強化材として用いることにより、環境性能に優れた自動車用内装材を開発すること。一次構造材として竹を使うことには無理がありませんが、内装材としては強度的にも十分対応できます。燃焼しても有毒ガスを発生させることなく、軽量化にも対応しています。これまでは樹脂と竹を接着させることは難しかったのですが、接着に竹の繊維そ

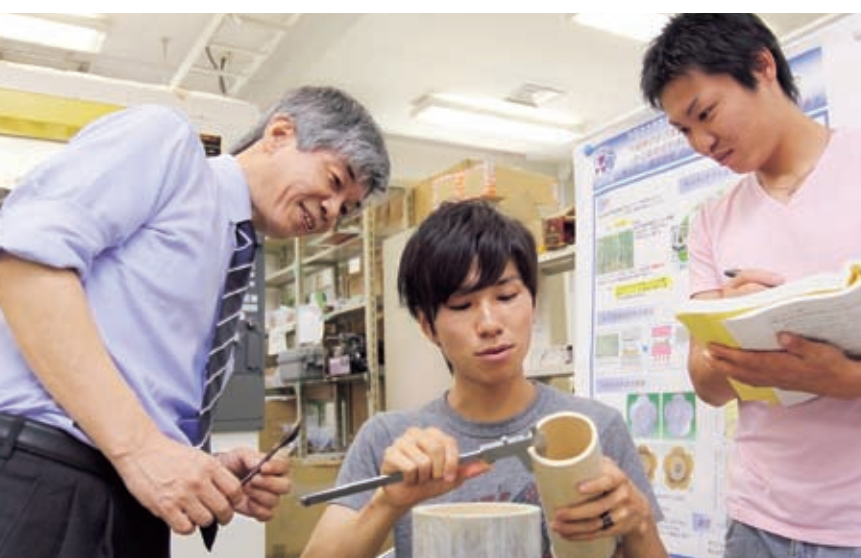
のものを使用することによって可能になりました。そもそも竹の繊維を使うという発想は、天然素材を強化材として用いるという方向から出てきました。私がこのような研究を行うようになったのは、複合材料研究センターで得られた知見があったからこそであり、それがなければ取り組んでいなかったと言えるかもしれません。

2010年度のセンターの研究目標には、高性能繊維強化複合材料の開発、新規成型法の開発、先端複合材料の精密加工法の確立などを設定しています。その目標を達成するため、センター内の成果報告会を定期的開催し、研究員が集まってお互

いの進捗状況を精査するほか、協力して複数のテーマの研究を推し進め、問題点を話し合い、研究の効率化を図っています。また、これらの目標や成果について客観的な評価を得るために、日本材料学会や日本複合材料学会などの後援を得て、研究メンバーが成果を発表するフォーラムやシンポジウムを開催し、国内外の研究者に研究成果のレベルを問う機会を設けることも考えています。

研究センターとしての残りの活動期間はおよそ2年。他のセンターは定めた目標に向けて活動するのだと思いますが、複合材料研究センターは具体的な到達点を設定しているわけではありません。

それを決めた場合、そこでは予期しなかった新しいものは出てきにくいのですが、私たちのセンターの研究ではそういったものが生じる可能性が大いにあります。そこで、その新しいものについてもしっかりととした理論づけを行い、実際に同じ機能を持ったものを製造できるような技術を整備する。強いて言うなら、それが最終的な目標ということになるかもしれません。今後、様々なトライアンドエラーを繰り返す中で、どのような新しい成果と出合えるのか、私たち自身も楽しみにしています。



2009年度

大学決算について

財務部 経理課

2009年度大学決算は、2010年5月6日開催の大学予算委員会および大学評議会、5月29日開催の法人理事会で承認されました。

2009年度は、80年以上の歴史を有する文学部心理学科を改組し、京田辺キャンパスに心理学部を開設しました。また、心理学部の新設と併せて、より高度な心理学教育・研究を推進するために心理学研究科を開設したほか、今出川キャンパスにおいては、総合政策科学研究科に技術・革新的経営専攻(5年一貫制博士課程)を設置し、ビジネス研究科では英語のみで学位を取得できるグローバルMBAプログラムを開設しました。

教育研究条件の整備充実として、我が国を代表する国際化拠点の形成を目的とした「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に採択され、柔軟かつ有機的な教育改革を図るため、国際化推進室および海外拠点事務所(台北、ロンドン、北京、ハノイ)の設置など、教育理念の一つである「国際主義」教育を深化する様々な取り組みを実施しました。また、文部科学省が実施する「国公立大学を通じた大学教育改革の支援」では、前述のグローバル30のほか、「大学教育・学生支援推進事業」「教育研究高度化のための支援体制整備事業」などのプログラムで複数の取り組みが採択されました。

多様な産官学連携活動の一環として、国立科学博物館で「大学サイエンスフェスタ」を開催し、首都圏を中心に本学の特色ある最先端研究を紹介したほか、在学生父母、卒業生、高校生など幅広い層に向けて「同志社大学の今」を伝える「同志社キャンパスフェスタ」を全国主要都市6カ所で開催しました。

将来構想としては、今出川キャンパスでの文系学部の一貫教育体制の実現や、「グローバル・スタディーズ研究科」「スポーツ健康科学研究科」の開設準備に引き続き取り組んだほか、「グローバル・コミュニケーション学部」「同志社国際学院(初等部・国際部)」の2011年4月開設に向けた準備を進めました。

建設事業では、今出川キャンパス移転整備事業に向けてインフラや屋外工事、土地調査の一部を実施しました。また、京田辺校地において取得した近隣施設(多々羅キャンパス)では、学生の課外活動施設、留学生宿舍および外国人研究者向け宿泊施設などに活用するための整備に着手しました。

上記のとおり、2009年度は、戦略的な国際化の推進をはじめとした優先度の高い教育改革施策に必要な投資を行いました。教育研究諸事業における経費節減や近隣施設の整備事業の翌年度繰越などにより、予算と比較して支出が抑制されましたが、収入面においても、着実に入学者数や入試志願者数を確保したことに加え、寄付金や補助金、事業収入など外部資金の獲得への継続的な取り組みにより増収となっています。

以下、収支計算書に基づき主な収支の内容について説明します。

収入の部

学生生徒等納付金は292億円で、帰属収入に占める割合(学納金比率)は73%と大きな比重を占めています。

手数料は17億円で、入学検定料が主なものです。

寄付金は18億円で、教育研究施設等整備資金寄付金、奨学寄付金、寄付教育研究プロジェクトなど教育研究活動への寄付金、奨学事業への寄付金、機器備品や図書などの現物寄付金を受入れました。

補助金は42億円で、国庫補助金が主なものです。この大部分を占めるのが私立大学等経常費補助金で、一般補助16億円、特別補助15億円を受入れています。その他の国庫補助金では、施設設備対象の補助金として研究装置、研究設備などの採択を受け、さらに戦略的な国際化拠点の形成を目的とした国際化拠点整備事業費補助金(グローバル30)、教育研究高度化のための支援体制整備事業等を実施するための研究拠点形成費等補助金、教育G Pなどの大学教育・学生支援推進事業を実施するための大学改革推進等補助金などを受入れました。

資産運用収入は10億円で、各種引当資産の運用収入および預金などの受取利息・配当金、施設設備利用料収入などです。

事業収入は8億円で、企業からの受託研究費などの受託事業収入、補助活動収入および付属事業収入が主なものです。

雑収入は8億円で、私立大学退職金財団からの交付金収入が主なものです。

繰出金は3億円で、法人内諸学校からの資金調達額の返済額が主なものです。

分担金は1億円で、法人業務に係る法人内諸学校の負担分です。

当期固定資産除却額は16億円で、機器備品の償却期間完了に伴う除却額などです。

当期末未払金は1億円で、固定資産取得に係る未払金額を今年度の基本金組入額の減額項目として計上しているものです。

第2号基本金取崩額は3億円で、今出川校地整備事業に充当する大学今出川校地整備資金の取崩額および研究装置の取得資金としての研究装置設備等整備資金の取崩額です。

特定支出準備金取崩額は12億円で、中高統合事業に関わる中学校移転への財政支援に係る準備金の取崩額および使途が特定された準備金の取崩額です。

収入の部合計は430億円となり、手数料、補助金、事業収入、資産運用収入などの増収および固定資産除却額の増加などにより予算に対して8億円の増加となりました。

支出の部

人件費は193億円で、帰属収入に占める割合(人件費比率)は49%となりました。教員充実計画による教員増員などにより、前年度に比べて6%増加しました。

教育研究経費は134億円で、経常的な教育研究活動に要した経費です。

管理経費は15億円で、大学の維持管理に要した経費です。

繰入金は35億円で、中高統合事業特別会計への繰入額が主なものです。

施設関係支出は22億円で、キャンパス近隣の施設取得、今出川校地整備事業などによる支出です。

設備関係支出は22億円で、教育研究用機器備品、図書などの固定資産取得に係る支出です。

借入金等返済支出は2億円で、償還計画に基づく計画分です。

前期末未払金は1億円で、前年度に取得した固定資産に係る未払金額の支払額を今年度の基本金組入額として計上しているものです。

第2号基本金組入額は、組入計画に基づき、今出川校地整備資金の40億円を組み入れました。

第3号基本金組入額は、寄付金および過年度から保有している準備金の一部を基金に組み入れました。

第4号基本金組入額は、法人全体の組入計算に基づき必要額を組み入れました。

特定支出準備金繰入額は7億円で、使途特定寄付金および研究費などの予算繰越額を決算において繰り入れたものです。

支出の部合計は475億円で、予算に対して9億円の減少となりました。

収支差額

収入の部合計から支出の部合計を差し引いた**当年度消費収支差額**は45億円の支出超過となり、学生生徒等納付金以外の収入の増加や教育研究経費の執行残などにより、予算に対して18億円支出が減少しました。なお、累積消費収支差額としては**300億円**の支出超過額を翌年度以降に繰り越すことになります。

借入金

借入金残高は、前年度末に対して2億円減少し、当年度末では**11億円**となりました。

自己資金の不足額

消費支出超過額は内部資金の不足額であり、借入金は外部資金への依存額です。したがって、この両方を合わせた金額が自己資金の不足額となります。

前年度末の不足額は288億円でしたが、当年度末は23億円増加して**311億円**となりました。

(本文中の金額については1億円未満を調整しています)

■収支計算書

2009年4月1日から2010年3月31日まで

(単位：千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	29,192,610	29,191,367	1,243
手数料	1,562,500	1,720,834	△ 158,334
寄付金	1,626,630	1,773,938	△ 147,308
補助金	3,998,980	4,152,869	△ 153,889
資産運用収入	772,510	993,853	△ 221,343
資産売却差額	0	10,699	△ 10,699
事業収入	617,300	775,295	△ 157,995
雑収入	726,730	755,323	△ 28,593
繰出金	264,070	272,140	△ 8,070
分担金	132,670	132,670	0
(帰属収入合計)	(38,894,000)	(39,778,988)	(△ 884,988)
当期固定資産除却額	1,417,530	1,580,638	△ 163,108
借入金等収入	0	0	0
当期末未払金	0	100,174	△ 100,174
第2号基本金取崩額	530,000	330,000	200,000
(基本金過年度組入額、未組入額合計)	(1,947,530)	(2,010,812)	(△ 63,282)
特定支出準備金取崩額	1,278,780	1,174,350	104,430
[収入の部合計]	[42,120,310]	[42,964,150]	[△ 843,840]

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	19,538,590	19,346,183	192,407
教育研究経費	14,086,030	13,445,459	640,571
消耗品費他	10,858,750	10,223,678	635,072
減価償却額	3,227,280	3,221,781	5,499
管理経費	1,561,880	1,532,040	29,840
消耗品費他	1,414,370	1,379,220	35,150
減価償却額	147,510	152,820	△ 5,310
借入金等利息	23,250	23,248	2
資産処分差額	15,130	42,269	△ 27,139
徴収不能引当金繰入額	45,950	54,634	△ 8,684
徴収不能額	0	4,862	△ 4,862
繰入金	3,498,700	3,512,159	△ 13,459
予備費	110,000	-	110,000
(消費支出合計)	(38,879,530)	(37,960,854)	(△ 918,676)
施設関係支出	2,676,910	2,180,084	496,826
設備関係支出	2,118,830	2,199,460	△ 80,630
当期固定資産受贈額	0	94,738	△ 94,738
借入金等返済支出	183,580	183,580	0
前期末未払金	72,590	72,588	2
第2号基本金組入額	4,000,000	4,000,000	0
第3号基本金組入額	2,000	6,650	△ 4,650
第4号基本金組入額	83,100	83,100	0
(基本金要組入額、当年度組入額合計)	(9,137,010)	(8,820,200)	(△ 316,810)
特定支出準備金繰入額	388,170	724,117	△ 335,947
[支出の部合計]	[48,404,710]	[47,505,171]	[899,539]

用語解説

● 収支計算書 ●

学校法人会計基準に基づく消費収支計算書においては基本金組入額を帰属収入から控除して表示しているため、収支の内容をよりわかりやすくするために、消費収支計算書に基本金組入計算に係る各項目をそれぞれ収入・支出の部に計上したのが「収支計算書」です。

● 基本金 ●

第1号基本金は、学校法人が、教育研究活動に供するため、自己資金により取得した固定資産の価額です。

収支計算書において第1号基本金組入額は、支出の部に取得した固定資産(施設関係支出、設備関係支出、現物寄付資産)の額を表示し、さらに過年度取得した固定資産に係る借入金等返済支出を表示しています。また、収入の部に固定資産取得に係る借入金等収入、固定資産売却による再取得価額などを表示しています。

第2号基本金は、将来取得する固定資産に充てるための資金です。

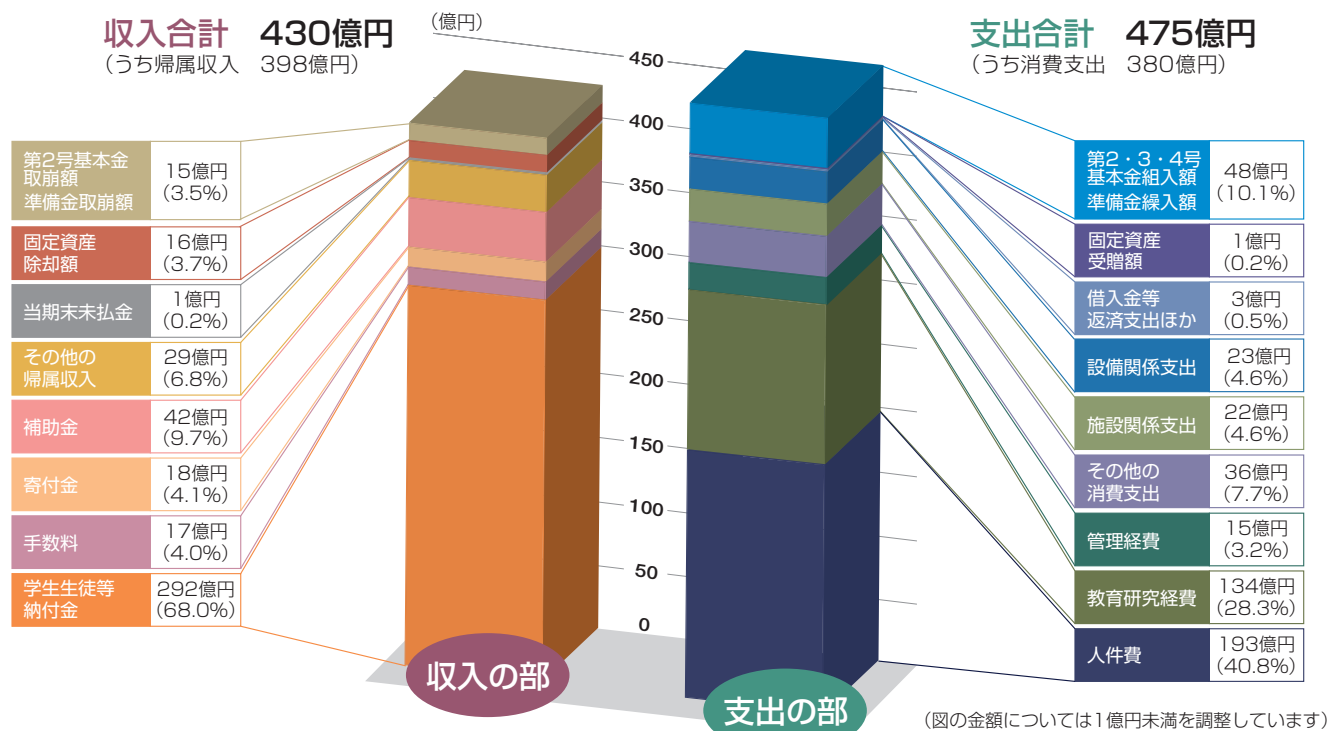
第3号基本金は、基金として継続的に保持し、その運用果実により教育研究活動の遂行を支援するための資金です。

第4号基本金は、恒常的に保持すべき資金として学校法人会計基準が定める額です。

収支差額の部			
科目	予算	決算	差異
(当年度消費収支差額)	(△ 6,284,400)	(△ 4,541,021)	(—)
消費支出準備金繰入額	0	0	—
消費支出準備金取崩額	3,373,910	1,987,421	—
[繰入取崩後当年度消費収支差額]	[△ 2,910,490]	[△ 2,553,600]	[—]
[前年度繰越消費収支差額]	[△ 27,467,190]	[△ 27,467,191]	[—]
[翌年度繰越消費収支差額]	[△ 30,377,680]	[△ 30,020,791]	[—]

借入金			
科目	予算	決算	差異
[前年度未借入金残高]	[△ 1,304,430]	[△ 1,318,350]	[—]
当年度借入額	0	0	—
当年度返済額	183,580	183,580	—
[当年度未借入金残高]	[△ 1,120,850]	[△ 1,134,770]	[—]

■収支構成図



CAMPUS NEWS

キャンパス
ニュース

同志社創立135周年記念 「新島襄と同志社」

5月26日から31日まで、大丸京都店で、同志社創立135周年記念「新島襄と同志社」を開催し、約6,000人の方にご来場いただいた。

初日にはオーブニングセレモニーとして、グリークラブによるカレッジソング斉唱、野本真也理事長の開会挨拶に引き続き、大谷實総長、野本真也理事長、八田英二学長、加賀裕郎女子大学長、西田光明大丸京都店営業推進部長によるテープカット

と、Wild Rover IV世号除幕式を執り行った。

特別展示をしたWild Rover IV世号は、1968年開催のメキシコ五輪で、同志社大学クルーがボート競技エイトに使用した艇で、五輪終了後、メキシコの関係者へ譲渡されていた。今般、同志社創立

135周年記念に際し、所有していたモンテレー工科大学から同志社大学へ寄贈され、43年ぶりの里帰りとなった。

また、新島襄と同志社の伝統と理念に対する理解を深めていただくために、新島の生涯と同志社の歴史にまつわる各種資料や写真パネルを展示し、開催期間中を通して様々な行事を開催した。29日には大谷総長が「同志社の教学理」、30日には八田学長が「同志社大学の改革―2013年に向けて―」と題してそれぞれ講演を行い、聴衆は熱心に聞き入っていた。また、法人内各学校による合同学校説明会も催し、開校予定の



国際学院に対する関心の高さが窺えた。

多数の来場者に対し、新島襄の志、同志社建学の理念を感じとっていただく良い機会となった。創立135周年を迎えるにあたり、新島襄の志をさらに広く深く継承・発展させていきたい。

(法人事務室)

同志社創立135周年記念 「函館―脱国の地において―」

6月13日、同志社創立135周年記念行事として、新島襄脱国の地である函館市の函館国際ホテルで、「函館新島講座」を開催した。大谷實総長からは「同志社の良心教育」と題して講演があり、キリスト教を徳育の基本とし、自立心と国際感覚を持った人材育成を幼稚園から大学院まで一貫して行いたい、という思いが述べられ、新島の目指した教育理念の実現に向けて、誓いを新たにされた。また、野本真也理事長からは「新島襄の志」を演題に、多くの人々に支えられた新島襄の志が同志社設立として実を結ぶまでの生涯が語られ、また、キリスト教を徳育の基本として設立された同志社の今後進むべき道について、教職員一同が改めて新島の思いを覚えて、教育研究に携わっていくと訴えた。北海道函館水産高校の生徒達による、寸劇「新島襄と仲間たち」では、新島襄の脱国シーンを再現し、脱国に際して、友人であった富士卯之吉(成豊)、沢辺琢磨が



新島裏を「夢忘るなよ」と激励する場面などが演じられた。卒業生、校友、地元の方々を中心に約220人が参加して盛況のうちに講座を終えた。



また、翌14日には、函館市大町で、「新島裏海外渡航の地碑」碑前祭を開催した。大谷総長、野本理事長ほか法人関係者、校友、同窓、池田敏春函館市ブランド推進課長、地元の方々を中心に60人を超える参加者があった。讃美歌312を一同で斉唱、野本理事長の聖書朗読・祈祷で厳かに始まった式典は、大谷総長の式辞、池田課長の来賓挨拶と進み、カレッジソング斉唱に引き続き、野本理事長の祝福があり、最後に池田課長、大谷総長、野本理事長が碑前に花束を捧げ、滞りなく終了した。

(法人事務室)

硬式野球部、 関西学生野球優勝

硬式野球部は5月25・26の両日、わかさスタジアム京都で行われた立命館大学戦で2試合連続完封勝利を収め、関西学生野球春季リーグ戦の優勝を果たした。リーグ戦の優勝は、2003年秋季以来13季（6年半）ぶり。その結果、明治神宮野球場での全日本大学野球選手権大会



に、実に37年ぶり5度目となる出場が決まった。今季4勝をあげた藤井貴之投手（主将）が初の最優秀選手賞、ベストナインには原隆徳三塁手、松原匡志外野手がそれぞれ選ばれた。



神宮への出発前に開かれた京田辺市主催の壮行会には、雄姿を一目見ようと多くの観客が詰め掛け、会場は超満員。数々の激励を受けた選手たちは意気揚々と東京へ向かった。シード校として2回戦から出場した同志社は、東日本国際大学に辛勝するものの、準々決勝で東海大学に敗退。しかし37年ぶりのベスト8進出が、

秋季リーグでの更なる飛躍につながることを期待したい。

写真提供・同志社スポーツアトム編集部

(スポーツ支援課)

サッカー部が 関西学生選手権を制覇

6月6日、第39回関西学生サッカー選手権大会の決勝戦が大阪長居スタジアムで行われた。サッカー部は大阪体育大学に20の完封勝利を収め、見事14年ぶり5回目の優勝を飾ると同時に、第34回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント



トに関西第1代表として2年連続13回目の出場を勝ち取った。西京極陸上競技場で行われた1回戦の相手は仙台大学。同志社は相手の倍以上になる19本ものシュートを放ったが、好機を得点に結びつけることができず、あと一步のところまで2-3と惜敗した。

写真提供・同志社大学サッカー部

(スポーツ支援課)

留学生が

祇園祭山鉾巡行に参加

7月17日、本学教職員と留学生有志たちが、山鉾の曳き手として祇園祭に参加した。本学留学生の参加は6年目となり、今年も曳山は後祭巡行列の最後を飾る大役・南観音山。揃いの法被に身を包み、汗を拭いながら鉾を曳く彼らの背中を、沿道からの温かい声援が後押しした。

参加したのは、Andrew STAPLES君、ネス研究科特別客員教授や同研究科Global MBAプログラムへの留学生、交換留学生および修了生たち。バックグラ

ウンドや来日の目的はそれぞれ異なるが、日本の伝統文化や精神性に触れることができた表情は一樣に晴れやかであった。



(広報課)

オープンキャンパス 2010開催

7月25日京田辺キャンパス、8月1日今出川キャンパスで、オープンキャンパスを開催し、晴天にも恵まれ、両キャンパスで約13,000人の来場者があった。

両日とも、教員による学部・学科紹介、入試説明会、AO入試説明会などを実施し、来場者は熱心に耳を傾けていた。個別相談ブースでは、受験生や保護者からの様々な質問に、教職員が丁寧に応じた。また夏のオープンキャンパスでは初めて「同志社の英語を学ぼう!」、学生による学部紹介・入試体験談、奨学金や就職に関する

説明会を開催し、いずれも好評であった。その他にも、模擬講義や研究室・実験室の紹介といった学部独自のイベントやキャンパスツアーも行われ、盛況で実りある2日間であった。



(入学課)

■新任教員紹介

この度、10月より新たに次の先生方をお迎えしました。

※国際教育インスティテュートは2011年度より開設。

- ①所属 ②職名 ③主な担当科目



Fabio Raphael

GYGI

(フアビオ)

ラファエル ギギ

- ①社会 (社会)
②助教
③社会学特講II



河合 隆治

(かわい たかはる)

- ①商 (商)
②准教授
③原価計算論



吉川 英一郎

(よしかわ えいちろう)

- ①商 (商)
②准教授
③貿易業務論



山内 雄気

(やまうち ゆうき)

- ①商 (商)
②助教
③ビジネス・トピックスI



河野 明

(こうの あきら)

- ①理工
(数理システム)
②教授
③線形代数学II



Takashi

FUJITANI

(タカシ フジタニ)

- ①グローバル・スタディーズ
グローバル・スタディーズ
②教授
③アジア比較社会論1・2



田中 智子

(たなか ともこ)

- ①人文科学研究所
②助教



Philipp

TROMOVITCH

(フィリップ トロモビッチ)

- ①理工学研究所
②教授
③ Science and Engineering Writing (W)



Gregory

S. POOLE

(グレゴリー フール)

- ①国際教育インスティテュート設置準備室
②教授
③※



David UVA

(ダヴィッド ウヴァ)

- ①国際教育インスティテュート設置準備室
②助教
③※

■退職教員

9月末で次の先生が退職されました。

● Daniel L. BRATTON 教授

2010年度 卒業式・学位授与式 2011年度 入学式

入学式			卒業式・学位授与式(学部)(大学院) 留学生別科修了式			
場所	場所	場所	場所	場所	場所	場所
栄光館	寒梅館 ハーディーホール	京田辺校地 デイヴィス記念館	京田辺校地 デイヴィス記念館	栄光館		場所
4月3日(日)	4月2日(土)	4月1日(金)		3月22日(火)	3月21日(月・祝)	3月20日(日)
10時	16時30分	14時	12時	10時	15時-12時30分	10時
10時	16時30分	14時	12時	10時	15時-12時30分	10時
全研究科	国際教育インスティテュート 日本語・日本文化教育センター 留学生別科	文学部・社会学部 政策学部 文化情報学部 スポーツ健康科学部	神学部・法学部 経済学部・心理学部 グローバル・コミュニケーション学部 生命医科学部 理工学部	文化情報学部・文化情報学研究科 工学部・工学研究科 生命医科学研究科	政策学部・総合政策科学研究科 アメリカ研究科 グローバル・スタディーズ研究科 司法研究科 ビジネス研究科	文学部・文学研究科 心理学研究科 法学部・法学研究科 神学部・神学研究科 社会学部・社会学研究科 留学生別科
				学部・研究科		学部・研究科

本学教員の執筆図書を紹介

図書館調べ(価格は税別)

法と現代社会

田井義信 他 執筆 世界思想社 1,900円

What's Economics 第3版

八田英一 他 著 有斐閣 1,800円

新しい福祉サービスの展開と人材育成

理橋孝文 編 法律文化社 2,800円

テキストブック資本市場

足立光生 著 東洋経済新報社 2,500円

明治思想史の一断面

伊藤彌彦 著 晃洋書房 2,000円

古都物語

鶴橋俊夫・中井義明・若林邦彦 他 執筆
同志社大学大学院文学研究科

金融システム改革と現代経済

藤原秀夫・植田宏文・丸茂俊彦・林田果穂・佐々木 郎
五百旗頭真吾 他 執筆 晃洋書房 2,700円

貨幣と賃労働の再定義

向井公敏 著 ミネルヴァ書房 4,000円

The new paradox for Japanese women

橋本俊昭 著 International House of Japan

スタート憲法

池田晴奈 他 著 成文堂 1,000円

言語都市・上海1840-1945

眞鍋正宏 他 著 藤原書店 2,800円

判例行政法入門第5版

小谷真理 他 執筆 有斐閣 2,000円

U-10が世界経済を消滅させる日

浜矩子 著 フォレスト出版 1,400円

最新・基本経営学用語辞典

今西宏次 他 執筆 同文館出版 2,800円

イギリス現代政治史

梅津實力・久昌幸 他 編著 ミネルヴァ書房 2,800円

現代世界経済をとらえるVer.5

小野塚佳光 他 執筆 東洋経済新報社 2,000円

手形法小切手法講義第2版

森本滋 編 伊藤晴文 他 執筆 成文堂 1,800円

新時代の社会教育と生涯学習

国生寿 他 執筆 国生寿 他 編著 学文社 2,400円

社会ネットワークのリサーチ・メソッド

鶴橋俊夫 他 著 ミネルヴァ書房 2,800円

多様な家族時代における新しい福祉モデルの国際比較研究

黒木保博 他 執筆 学文社 6,000円

よくわかる地域福祉第4版

上野谷加代子 他 執筆 ミネルヴァ書房 2,200円

GMの経験

石田光男 他 執筆 石田光男 他 編著
中央経済社 3,000円

アメリカの経営・日本の経営

谷本啓 他 執筆 ミネルヴァ書房 2,800円

よくわかる組織論

久保真人 他 執筆 ミネルヴァ書房 2,800円

平安の都市と文化

浜中邦弘 他 執筆 吉川弘文館 2,800円

日本中世都市遺跡の見方・歩き方

鶴橋俊夫 昭和堂 2,000円

図で理解する発達

加藤正晴 他 執筆 福和出版 2,300円

定量的信用リスク評価とその応用

津田博史 他 編 朝倉書店 3,800円

中東・北アフリカのディアスポラ

中西久枝 他 執筆 明石書店 5,000円

やさしく学ぶマネジメントの学説と思想増補版

高井伸一・大田原準 他 執筆 ミネルヴァ書房 3,500円

黄済先生米寿記念論文集

橋本俊昭 他 執筆 同文館出版 2,800円

アジアにおける株主代表訴訟制度の実情と株主保護

川口泰弘 他 執筆 川口泰弘 他 編
商事法務 3,800円

行政法の基本第4版

佐伯彰洋 他 執筆 法律文化社 2,600円

基礎演習民事訴訟法

岡田幸宏 他 執筆 弘文堂 3,000円

地域学への招待 改訂新版

光田重幸 他 執筆 角川学芸出版 2,800円

ベーシック経済法第3版

瀬領真悟 他 著 有斐閣 1,900円

アジアの政治経済入門 新版

大矢根聡 他 執筆 有斐閣 2,500円

よくわかる地域福祉第3版

上野谷加代子 他 執筆 ミネルヴァ書房 2,000円

入門刑事手続法第5版

三井誠 他 著 有斐閣 2,900円

若者は日本を変えるか

ブルース・ホワイト 他 編 世界思想社 2,800円

法と現代社会

田井義信 世界思想社 1,900円

よくわかる考古学

松藤和人・鶴橋俊夫・竹岡甲男・中井義明・浜中邦弘・
若林邦彦 他 執筆 ミネルヴァ書房 3,000円

産業集積地の継続と革新

藤本昌代 他 著 文眞堂 2,600円

芸術環境を育てるために

岸文和 他 著 角川学芸出版 3,500円

日本経済の探究

八田英一 他 編著 佐竹光彦・北川雅章 他 執筆
晃洋書房 2,800円